



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.6.4 No. 3228

組合潰しの先頭には常に 土岐(千葉運長)がいた!



土岐区長、得意技?のボラロイドカメラを手に

動労千葉潰しの急先鋒!

土岐千葉運転区長は、この間労務政策Ⅱ組合潰しの先頭に立ち続けてきた人物である。

JR総連と結託したJRの異常な労務政策は、千葉では、とりわけ運転関係職場において徹底的に進められてきた。

土岐区長は、動労千葉を一貫として敵視し、まさにその先頭に立ち続けてきたのである。

土岐区長は「風土改革プロジェクトチーム」なる労務政策チームの代表バッターとなっている。

これは、千葉支社は風土が悪い(動労千葉や国労が多数を占めていると

いうこと!)から改革しなければならぬというものであり、JR東労組松崎が「風土改革」と言いはじめた言葉をそのまま採用して、支社の労務政策方針としたものである。

運転職場に働く誰しもから、自らの立身出世のためにJR総連革マルに身も心も売り渡した人物と見られているのが土岐区長だ。

土岐区長がこの間、組合潰しのためにたちはたらいいた言動は、数えあげれば数限りない。

そのごく一部だけをあげても次の通りである。

貨車解体作業への強制配転と暴言!

一九八七年七月一六日に、動労千葉・国労組合員を貨車解体作業に強制配転し、しかもその後、鉛中毒の危険性がありながら、そのことを一切隠しとおして何の安全教育も行わずに作業につけていたことが明らかになったことについて、本役員(国労も含めた)配転された仲間た

ちが、現場を訪れた土岐(当時係長)に対し、「何でこんなことをひと言も言わず隠していたのか、殺人行為じゃないか」と問いただしたことに對し、「そんなことは説明する必要はない!排除する!作業に就きなさい!ここはそんな議論をするところじゃない!お前らはそんなことを言わずに仕事を

していればいいんだ!」と暴言、しかも、その後このわずかな時間を賃金カットする。

動労千葉役員を狙い うちくした強制配転!

然だ!

一九八八年四月一三日に行われた強制配転は、配転者四〇名中動労千葉組合員が三二名(八〇%)しかもそのうち二〇名が組合役員であるという、あからさまな動労千葉潰し攻撃であった。この強制配転に関して開催された団交でのやりとりにおいて、土岐(当時輸送課長代理は、次のとおり極めて不面目・不誠実な暴言(組合)配転者の八〇%が動労千葉組合員であるのはどういうことか?

(土岐) たんなる偶然だ!

(組合) しかも二〇名が組合役員だ。これは明らかに組合潰しを狙ったものではないか!

(土岐) それもたんなる偶然だ!

(組合) この間不当処分を受けた者が皆配転されているのはどういうことだ!(土岐) たんなる偶

な時間を賃金カットする。

八七年末から八八年にかけて河野(当時車務課長)らとともに数ヶ月間にわたって「職場規律の確立」と称し、木更津支区に集中的に乗り込み、連日の組合弾圧を行う、その結果四月には副支部長・書記長・執行委員・青年部長ら五名が強制配転される。前記の団交発言は、このときのものである。

また別な団交で、(組合) 国鉄の生活センター以来、最も長期に本務から外され配転されている仲間たちが、運転職場への復帰の機会があったときにも、除外され続けているのはどのような訳か(土岐) そんなことは自分の胸に手をあてて考える!(つづく)